

〈解答〉

- ① 1 いまここにはないものをおもう（というはたらき。）
2 A 社会の発展 B 社会の別のあり方を構想する
3 ウ
4 工

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ①
1 指示語を含む「このはたらき」が指す内容を明らかにする問題であるが、直前の文中に、「想像のはたらき」とあるため、その具体的な内容を明らかにすればよいとわかる。この「想像のはたらき」は、直前にある「まだないもの、もうないものを現在にたぐり寄せる（こ」と）を指している。しかし、設問に指定された文字数に合わないので、さらにその前の文から、その言い換えとなっている表現、「いまここにはないものをおもう」を導き出す。
- 2 傍線②と同じ段落に、「社会の発展は、そのメンバーたちがどういいう想像力をもっているにかかっている。そして、社会がいろいろな困難を抱え込んでいきづまっているときに、社会の別のあり方を構想するというのも、やはり想像のはたらきである」とあるのに注目する。この二文の内容から、「社会の発展」や、社会が困難を抱え込んだ場合に、「社会の別のあり方を構想する」際に、想像力のはたらきが必要となるため、政治に想像力が求められるのだと、筆者が考えていることがわかる。
- 3 「優しさの ③」でもある」の部分、直前にある「狡知の源泉ではある」の部分と対句的になっていることを読み取る。つまり、「狡知⇕優しさ」、「源泉⇕ ③」という関係になっているのである。「源泉」とは「物事が発生してくるもと」という意味であるため、「狡知の源泉」は「ずる賢い知恵を生み出すもととなるもの」という意味になる。この表現と対になる表現をつくるためには、「ある傾向や風潮が育つのに都合のよい環境」という意味をもつ、ウ「温床」を空欄③に入れ、「優しさの温床（⇕優しさを育てるのによい環境）」とするのが、最もよく当てはまる。ウ「温床」以外の選択肢の熟語には、「生み出すためのもと」や、「ある事柄を生じやすくする」といった意味はない。
- 4 接続語の問題は、前後の文章のつながりを考えること。「想像力を育むプログラムを設定する余裕はなかった」と「想像力を育むチャンスは設定した」との関係は逆接ととらえる」とよい。